

2020年度業務実績報告書

提出日 2021年 1月 4日

1. 職名・氏名 准教授 山下知晃

2. 学位 学位 博士、専門分野 経済学、授与機関 京都大学、授与年 2017

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習	
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 簿記原理（前期，4単位）対象：主として1年生	
②内容・ねらい 本講義では，受講生が複式簿記の基本的な仕組みを理解し、日々の取引の記録ならびに決算の 手続きについて基本的な内容を習得することを目的とする。日商簿記3級程度の内容を理解す ることを目標とし、中上級の専門科目(簿記論・会計学等)の学習の足掛かりとする。	
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 今年度は新型コロナの流行があり，オンライン（オンデマンド）での講義を実施した。上記の ねらい（講義の目的）を達成するために，講義ビデオの配信のみならず，予・復習課題の出題 をほぼ毎回行うようにした。加えて，演習の時間を設け，受講生が学習内容の理解度を自分で 確認できる機会を数多く設けた。また，Google Classroom を通じた質疑など，オンラインでの 講義プラットフォームを積極的に活用して講義を行った。	
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 簿記論Ⅱ（前期，2単位）対象：主として2年生以上	
②内容・ねらい 本講義では，簿記論ⅠとⅡで日商簿記2級程度の内容を理解することを目標とする。簿記論Ⅰ で扱うことができなかったトピックについて講義を行うこととし，今年度は収益と費用、純資 産の会計およびより発展的な取引の会計処理を講義する。	
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 簿記原理同様，今年度は新型コロナの流行があり，オンライン（オンデマンド）での講義を実 施した。上記のねらい（講義の目的）を達成するために，講義ビデオの配信のみならず，予・ 復習課題の出題をほぼ毎回行うようにした。オンライン（オンデマンド）での講義配信という ことを活用して，例年より進度を速めにし，発展的な内容についても講義で扱った。	
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 演習Ⅱ（通年4単位）対象：4年生	
②内容・ねらい 本演習では，財務諸表利用者の立場に立ち、財務会計情報を利用する手法の習得を目標とする。 また，卒業研究を行うために必要な基本的な技能の習得や他者に自分が学習した成果を分かり やすく説得的に伝える練習も行う。	
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 今年度は新型コロナの流行があり，前期はオンライン（オンデマンド）での演習を実施した（後 期は1名を除いて原則，対面）。最初はテキストを用いて，昨年度できなかった内容を扱ったも のの，後半からは卒業研究（グループワーク）を行った。オンラインでは対面と比べて，議論 等が難しかったものの，Zoom のブレイクアウト機能を用いて，可能な限りディスカッション の機会を設けた。卒業研究の指導は，各班の進捗に合わせて，可能な限り受講生が自分たちで	

課題を発見し、その課題を解決できるよう、個別にコメントを行った。また、新型コロナウイルスの問題で後期も引き続き、オンラインでの受講を希望した学生にも配慮し、演習の運営を行った。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
簿記論Ⅰ（後期，2単位）対象：主として1年生以上

②内容・ねらい
本講義では、簿記論ⅠとⅡで日商簿記2級程度の内容を理解することを目標とする。具体的には、現金・預金、債権・債務および手形、有価証券、商品売買、固定資産および引当金を主たる内容とし、時間が許せば総合的な演習を行う。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
今年度は新型コロナの流行があり、原則、対面（一部オンライン）で講義を実施した。上記のねらい（講義の目的）を達成するために、対面での講義や講義ビデオの配信のみならず、定期的に宿題を課し、受講生の理解度を高める工夫を行った。また、新型コロナへの感染に不安を覚える学生に対して、対面・オンラインで講義を選べるように工夫を行った。

(2)その他の教育活動

内容
公開講座『ネットで学ぶ！会計学～会計学入門講座 2020～』企画及び第1回担当

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
①著書	【 本】
②学術論文（査読あり）	
1. 会計上の損失計上と経営者交代との関連性：予備的分析、共著者無し、経済経営研究（第42号）、2020年3月。	【1本】
③その他論文（査読なし）	
	【 本】
④学会発表等	
1. Estimating a Firm-Year Measure of Conditional Conservatism for Japanese Listed Firms、第29回TJARワークショップ（2020年7月）、共同報告者有り（藤山敬史との共著、報告は山下が担当）。	【2件】
2. 条件付保守主義の尺度に関する3つのバイアス、日本会計研究学会第79回大会（2020年9月5日）、共同報告者無し。	
⑤その他の公表実績	【 本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
1. 日本学術振興会科学研究費助成事業若手研究（『条件付保守主義の計測方法に関する問題点の解明とその改善方法の探求』）2020年4月から2023年3月	
(3)特許等取得	
(4)学会活動等	
学会運営	
1. 会計理論学会第35回全国大会準備委員、2020年10月17日から18日、福井県立大学（オンライン）。	

5. 地域・社会貢献活動

1. 公開講座『ネットで学ぶ！会計学～会計学入門講座 2020～』第1回、福井県立大学永平寺キャンパス（オンライン）、2020年11月14日。※教育業績にも記載済み
2. 探究活動支援（1年生担当）、武生東高校、2020年8月28日，12月10日，2021年3月23日（予定）。

6. 大学運営への参画

(1)補職

(2)委員会・チーム活動

(3)学内行事への参加

オープンキャンパス（模擬講義担当、オンデマンド配信）

(4)その他、自発的活動など

新入生相談担当教員（前後期）